

今日はここが私達の居場所

～入来町の空き家が生む交流と居場所～

<提案>

今ある空き家を2種類に分け、その種類に応じて社会問題とマッチングさせ解決していく。今までに無い活用方法で地域の方に興味を持ってもらい、他の地域からも注目を集め、空き家の活用を広めていく。

<日本が抱える社会問題>

① 親と子のコミュニケーション

…家の中ではお互いにスマホやゲームをしている。外で子どもが遊んでいてもそこから離れて休憩していたり、スマホを見ていたりする。

② 地域に子どもの遊び場がない

…公園などが管理されず、外での子どもの居場所が無く、ボール遊び禁止など、体を思い切り動かせる公園が無くなってきている。また、家で遊ぶ子どもが増えた。スマホやゲーム機によって外に出なくなった。

③ オンライン弱者

…オンラインやリモートが発達してきているが、それについていけず、使いこなせない人も多くいる。また、初めてのことも多く、一人では不安だと思ったり、人との関わりが減り、寂しく思う人も増えてきている。

④ 引きこもり

…外との関わりが無く親の収入で暮らす。原因としては、退職、病気、などが原因。人間関係で引きこもりになるのは約2割程度。外に出たいと思う引きこもりの人も多い。

<空き家の種類>

・空き家パターン①

賃貸や売却用の家で利用者がいない。高齢者が住んでいたが施設などに入り、空き家になった。まだ綺麗な状態で、人が住める空き家。

・空き家パターン②

空き家になってから何年か経ち少し古くなった。あまり手入れがされておらず、そのまま放置すると何年後かに倒壊する恐れがある。建物はまだ丈夫だが、人が住むには修繕が必要。

提案① 子どもの遊び場&親と子のコミュニケーション

親と子どもが一緒になって遊べる空間を作る。
「大人に聞いた子どもの頃楽しかった遊び」

- ・秘密基地でお菓子を食べた。
- ・川にジャンプ
- ・ガラクタをコレクション
- ・ツユクサで色水作り

↓
自然の中だがラできる遊びばかり。都会ではできない遊びを再現し、大人も昔を思い出して、子どもと一緒に楽しめる空間を！

↓
秘密基地を再現！

独特の暗さや危険な感じとドキドキ感を空き家で再現。空き家パターン②とマッチング。壊さず手を加え、作りたい秘密基地を作る。



最初は家族でワイワイ楽しみながら



地域のボランティアの人や訓練校の生徒と集まりガチで作る秘密基地



色んな人がお菓子などを持ち寄って集まれる、憩いの場に

家の中に秘密基地を作ったり他の人と共有したり、家の外見を秘密基地みたいにして一人ではなく沢山のひとと作り、触れ合う。

提案②引きこもり&オンライン教室

空き家を利用しオンライン教室を開く。引きこもりの人を4つのタイプに分け、タイプごとに、オンライン教室を支えてもらう。この活動で引きこもりの人は収入を得ることができ、人との関わりを持ち、外に出なくても働けるので、社会復帰のきっかけや、新しいライフスタイルの提案となる。空き家は最近まで使っていた比較的綺麗であり、人が住める空き家パターン①を使う。

<引きこもりのタイプ>



仕事を探しながら引きこもっている。(外には出る)

例) 身体的病気で仕事を辞めた。
不況により仕事が無くなった。



社会に出るきっかけを探しながら引きこもっている。(用があれば外に出る)

例) 仕事をリタイアした人
学校をリタイアした人



人と関わる事や社会に出るきっかけを探しながら引きこもっている人。(自室からは出る)

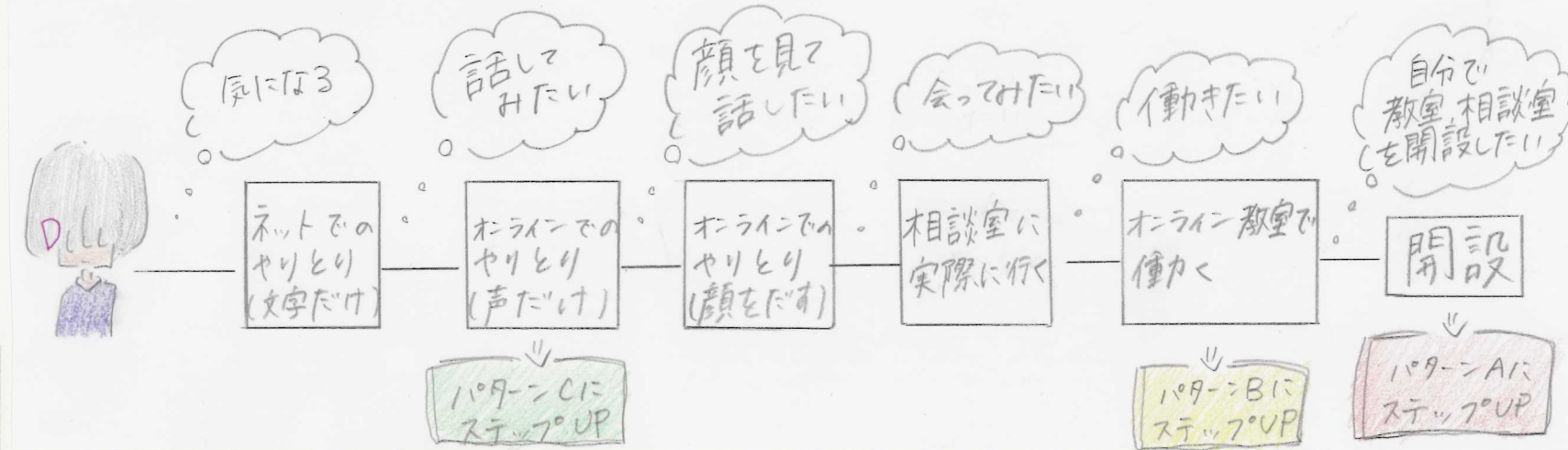
例) 人間関係に悩んでいるが、解消したいと思っている人。
働きたいが社会に出ることが怖い人。



人と関わりたくない、社会に出たくないと思い引きこもっている人。(自室から出ない)

例) 精神的な病気で長く外に出ていない。
人間関係にトラウマがある。

<社会復帰へのステップ>



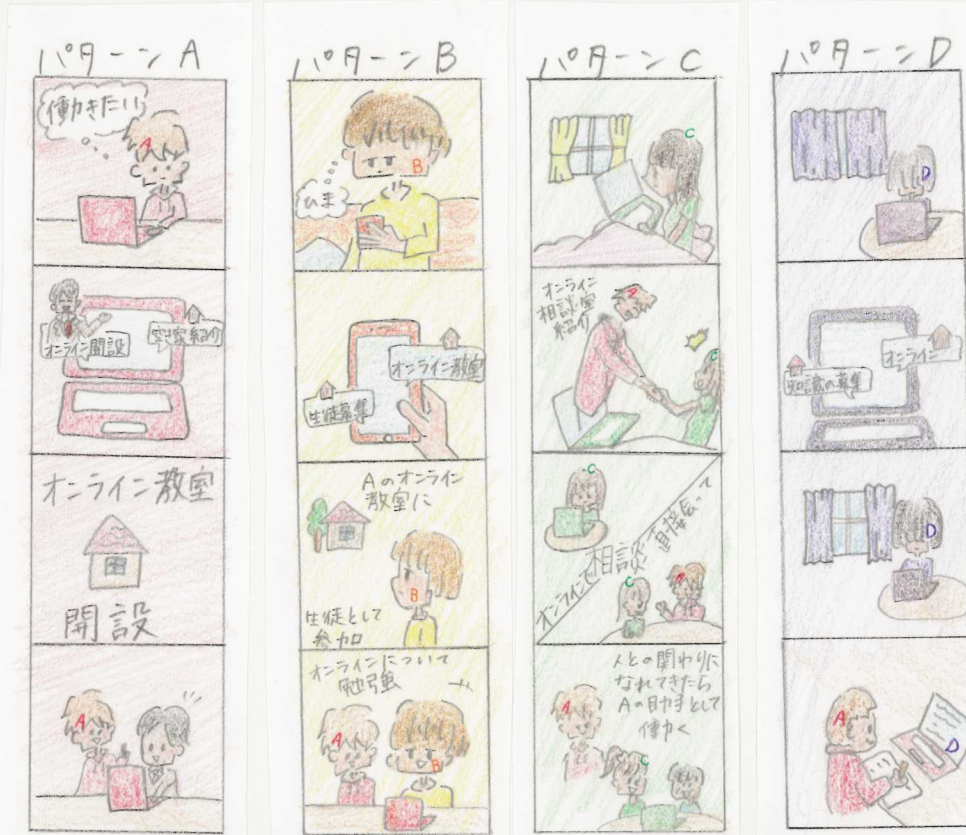
提案③ 入来町での活用

入来町の自慢である武家屋敷や、温泉、パラグライダーによって撮った町の風景などオンラインを通して発信する。



訓練校の生徒の専門的な知識を借り、入来町を地域住民でPRしていく。

<引きこもりとオンライン教室の関わり> <各タイプごとのオンライン教室に関わるまでの流れ>



<予想される地域への効果>

武家屋敷や茅葺門など観光地も多い入来町。しかし、それを発信し、アピールする場がなかった。また、保育園から高校、訓練校と教育機関は揃っているが子どもたちが輝ける機会が少なく、新型コロナウイルスにより地域での交流も減っていた。だから今回の提案で、子どもたちの居場所を自分たちで作ることで、子どもだけでなく全世代で楽しめる町となる。またオンライン授業やオンライン診療などインターネットに関わるのは若者だけでなく高齢者にも必要になってきた一緒に学ぶ場が地域にできると交流も増え、より活気あふれる町となる。また、この提案に地域の訓練校の生徒やボランティアが参加することで専門的な知識を生かし、本格的な活動と交流を通して子どもが輝ける場となる。今回の提案ではコロナウイルスとも向き合い、オンラインの活動や三密を避ける屋外での活用を考えた。また、空き家問題以外の社会問題と向き合うことで、多様性が謳われる今、寄り添う町として、ただ観光地として光るのではなく、住民に寄り添う町となる。この提案で、入来町の素晴らしさを知り、一緒に発展し続けたいと、輝く住民が増えることに期待したい。